

植物管理室では、園内での活動を中心に、温室や園場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

樹木ラベルのリニューアル



園内の樹木園の樹木ラベルをリニューアルし、取り付けました。このラベルは、宮島自然植物実験所で使用しているものを参考に手作りにて作ったものです。APG分類体系や2次元バーコードにも対応しています。

ラベルの取り付けによって、園内の樹木観察がよりわかりやすくなりました。「Hiroshima University Botanical Gaedenn」のロゴも入っています。すべての樹木についているわけはありませんが、順次追加していく予定です。



低木にも取り付けました

今後は、植物解説の掲示など、植物を学べる情報をどんどん増やしていきたいと考えています。

フリーの原版は、ものづくりフラザにて製作依頼。



第56回フィールドナビ「里山の植物を観察しよう」がスタート



ピオトーフでの植物観察のようす

第1回として、「春の野草、スミシ、タンポポの見分け方」を5月13日に実施し、学内外から参加者が来られました。

当日は、発見の小径を歩きながら、スミシ、タンポポを中心に、春の野草の見分け方を観察しました。参加者の方からは、「キャンパスにこんなにたくさんの種類の草花があるのに驚いた」との声も聞かれました。この講座は4回連続講座で、次回は6月に初夏の樹木観察を行ないます。



サワオグルマ

希少植物の保全作業

キャンパスに自生する希少植物であるイシモチソウやサギソウの生育地の草刈りを行いました。このほかにもササユリやキキョウなどキャンパスに自生している里山植物の多くは、適度な管理を続けて行かないと、環境が悪化し、生育することが出来なくなります。植物管理室では植物の休眠期である冬の時期に、毎年このような管理を行っています。



イシモチソウ自生地

栽培実習・春コース



植物栽培入門講座は、29年度春コースが始まりました。今回は定員を超える申し込みがあり、先着の12名の参加となりました。この講座では、自分の手で植物を育てることにより、植物の体のしくみ、成長の様子などを学びます。



自分たちで育てる野菜の苗を植え替えたり、畝にマルチを張ったりと、野菜が実る日を楽しみに、楽しく作業しています。



附属幼稚園の田植え



水田での稲作は、20年以上前から続いています。ここでは、古代米である南京香米(黒米)とあきろまんという広島県品種の2系統を作っています。園児たちにとっても学生さんにとっても、非常に貴重な体験となります。

5月15日に生態実験園の水田にて、附属幼稚園ぞら組27名が田植えを行いました。晴天にもめぐまれ、園児たちは、植物学教室の学生さんの指導のもと、苗を植えていきました。最初は、慣れない手つきでしたが、何度もやっているうちにとても上手に植えられるようになりました。



園内の花

アヤメ *Iris sanguinea*



アヤメ科
山野の草地に自生する。ハナショウブと違って水中には生育しない。和名は、外花被の基部に稜になった目があること、または葉が並列し稜をなすから。

園内の樹木

エゴ/キ *Styrax japonica*



エゴ/キ科
果皮には有毒なエゴサポニンを多く含む。昔は、果実を石鹼と同じように洗浄剤として洗濯に用いた。綿密で粘り気のある材は将棋の駒などにも用いられる。



【お問い合わせ先】

広島大学理学研究科
植物管理室

TEL:082-422-7111
(内線2842)

E-mail : tshioji@hiroshima-u.ac.jp